

風しん感染の予防に関する情報提供及び対策の徹底について

会員 各位

日本周産期・新生児医学会
理事長 田村 正徳

今年に入ってから、2004年の風しん大流行を凌ぐ勢いで先天性風しん症候群の患者が発生しています。

会員の皆様方におかれましては、特に不妊治療外来を受診された女性など、妊娠を希望する受診者には、あらかじめ風しん抗体価の検査や風しんワクチンの接種歴を確認することを通じて、不妊治療の開始前に、風しん感染の予防に関する適切な情報提供や十分な風しん対策の実施を徹底するようにお願い申し上げます。